

今号では、今年度から始まった「協議題」を基にした話合いの例を紹介します。

Advisers'
viewpoint

©岡山県「もちっち」

今年度から「管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問」も第2フェーズに入り、「**より主体的かつ組織的に教育活動の質の向上を図る**」ことを目的に、学校に「**協議題**」を設定していただいて協議を進めています。今号では、第1回目訪問の協議等での様子を紹介し、第2回目訪問の参考にしていただければと思います。

① 重点取組に関する「協議題」により取組内容が深まった例

協議題「話合い活動に焦点を当てた授業づくり」

面談では、重点取組の「話合い活動」の内容や達成指標の確認で終わったが、協議において、これまでの取組状況の説明と参観した授業の様子を基に、参加者で現時点での課題を話し合った。その中で、「自分の考えをしっかりと持たせる」「話し合う観点を示す」など、**今後、充実すべき具体的な取組内容を確認することができた。**

協議題「授業と家庭学習をつなぐ手立て」

重点取組の「授業と家庭学習の連動」をより効果的な実践にするため協議した。現状は、予習型や復習型、発展学習等のどれに取り組むかを各教科担当に任せており、進捗が今一つのことだったので、学校を挙げて予習型に絞って取り組み、子どもの授業に臨む姿勢が改善された事例を紹介。協議を通して、どれかに絞って組織的に取り組むことも大切という意見が、学校側から出てきた。校長から「**今後の方向性について迷っていたことが整理できた。**」という発言があった。

今年度から、「協議題」を基にした話合いを協議に加えたところ、「学校が考えている重点取組の内容について、疑問や不安が払拭できた。」「参加者がそれぞれに意見を述べることで、各参加者の考えが明確になり、今一度、重点取組等を考え直す契機となった。」といったご意見をいただきました。また、これを機に若手を部会のリーダーに抜てきして協議に参加させることで、人材育成を図ろうとしている校長先生も見られました。

学校規模や時間割等の関係で研究主任等を参加させることができなかった学校では、当日の放課後に協議した内容等を全教職員に伝え、中間期に向けて共通理解を図られた学校もあったようです。

A P 訪問の機会を捉え、組織的な教育活動の推進や人材育成のために役立てていただければと思います。

② 担当者等が参加した協議により共通理解が図られた例

研究主任だけでなく、部会リーダー等の担当者が参加し、各部会で話し合った内容や具体的な取組など、各々の立場からの意見を出し合った。校長から「これまで聞いていなかった研究主任等の考えや各部会での検討内容を確認し合うことができ、**参加者間での共通理解がより深まった。**」という感想が聞かれた。



小学校での協議等の様子